

特集「クラウド時代のインターネットと運用技術」の 編集にあたって

中村 素典^{1,a)}

社会における様々な活動を支えるシステムは、その省コスト化と柔軟なスケラビリティを実現するクラウド化が急速に進んでいる。研究教育を含むあらゆる分野において、これまで各自でコンピュータ基盤を構築、運用するのが一般的だった時代から、クラウドを活用する時代にシフトしつつある。クラウドを活用することにより、スモールスタートが安価かつ迅速にできるとともに、シームレスにスケールアップすることが容易であり、ビッグデータやオープンデータ科学への流れにおいてもクラウドは重要な役割を持つことになると考えられる。

しかし、クラウドはネットワークに大きく依存するサービス形態であるとともに、クラウドへの移行によってネットワークの利用形態が従来から大幅に変化するため、通信基盤としてのインターネットの役割やその運用管理、さらにセキュリティ対策に求められる内容も大きく変化してきている。

本特集号は、クラウド時代に必要とされる情報通信基盤の構築および活用に向けた最新の研究、開発、実験、運用等に関する論文を集め掲載することにより、クラウドに関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指し、インターネットと運用技術 (IOT) 研究会が中心となって、企画・編集を行った。

本特集号には 13 編の論文の投稿があり、14 名の委員からなる特集号編集委員会が中心となって査読を行った。また、これまでの特集号では、前年末のインターネットと運用技術シンポジウム (IOTS) との連携を行ってきているが、今回の特集号でも約半数の編集委員に IOTS 2014 プログラム委員経験者を迎えることなどで連携を図っており、IOTS 2014 の発表をベースとした論文の投稿も 5 編あった。慎重かつ丁寧な査読を行った結果、10 編 (うち、IOTS 2014 からのものが 4 編) が採録となり、クラウドシステムや分散システムにおける構築・運用技術、さらにそれらに関連するセキュリティに関する研究等について論じられた優れた論文を掲載することができた。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただくとともにその実施にご尽力、ご支援いただいた学会関係者各位に感謝するとともに、本特集号に興味を持ち優れた論文をご投稿いただいた著者の方々と、多忙な中、多数の研究成果を綿密に精査し、より良い論文にすべく有益なコメントをご提供いただいた査読委員ならびに編集委員の方々に深く感謝する。また、編集作業をサポートいただいた副編集長および学会事務局の皆様にも感謝する。本特集が、読者への有益な情報となり今後の社会基盤の発展の一助となることを期待したい。

「クラウド時代のインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集長
中村素典 (国立情報学研究所)
- 副編集長
吉田和幸 (大分大学)
- 編集委員 (五十音順)
石島 梯 (大阪府立産業技術総合研究所)
石橋勇人 (大阪市立大学)
今泉貴史 (千葉大学, 論文誌ジャーナル編集委員会
ネットワークグループ副査)
大谷 誠 (佐賀大学)
柏崎礼生 (大阪大学)
北口善明 (金沢大学)
齊藤明紀 (鳥取環境大学)
坂下 秀 (アクタスソフトウェア)
佐藤 聡 (筑波大学)
榊田秀夫 (京都工芸繊維大学)
宮下健輔 (京都女子大学)
山井成良 (東京農工大学, IOT 研究会主査)

¹ 国立情報学研究所
National Institute of Informatics, Chiyoda, Tokyo 101-8430,
Japan

^{a)} motonori@nii.ac.jp